

株式会社矢部庄七商店



【取材ご協力】
株式会社矢部庄七商店
〒417-0011
静岡県富士市鈴川本町 12 番 35 号
代表取締役 矢部 達樹様

屋号としての歴史は古く明治まで遡り、昭和25年より株式会社矢部庄七商店として新たに創業を開始しました。長い歴史を持つ矢部庄七商店が運送業を始めたのは30年ほど前。静岡県東部を中心に、主に工業薬品の配送を行っています。お客様に対して「付加価値をつけた仕事」を提供すること大切にしており、その仕事の範囲は配送だけにとどまりません。お客様から要望があれば、運んだ薬品をタンクに注ぐところまで、プラスアルファの仕事も引き受けます。ただ届けて終わりでない、お客様に対しての誠実な姿勢により、矢部庄七商店は多くの取引先と長きにわたり強い信頼関係を築いています。



アルコール検知器が担う、「安全」の役割

やってはいけないことを示す

「**運**転免許を失うと、従業員は仕事を失くす。彼らを守るためにもやってはいけないことをしっかりと示す必要がある」そう語るのは代表取締役の矢部達樹さん。運ぶ荷物も取扱いに必要な危険を伴う工業薬品であることから、その取扱いも含め「安全」に関わることに対する意識が高い。アルコール検知器も、義務化するより早く15年ほど前に導入。最初に値段を見た時には思わず「高い！」と驚いたそう。ただ使用していくうちにその価値を実感。数値としてはっきりと目に見える形で示すことは、従業員の「安全に対する意識づけ」に対して、非常に高い効果があったと語ります。



より便利に、そして安心できる

矢部庄七商店が現在使用しているのは、東海電子の『設置型アルコール検知器 ALC-miniIV』。旧モデルから数年前に買い替えました。今回からIC免許証リーダーが内蔵されるようになり、免許証の不携帯や有効期限切れを防ぐことができ、より便利になったと言えます。また使い始めて11か月ほどでアルコールセンサーの取り換え時期を機械が自動で通知。これによりセンサーを常に正確な状態を保つことができ、利用する側も安心です。そして、近年のコロナ禍において矢部庄七商店では、検査結果が出力される紙に、当日の検温結果も記入して体調管理も行っているそう。現状あるものを有効利用し、複数にわたる検査や管理の手間を省く工夫からも、アルコール検知器の新たな活用が見えてきます。

「できることから」毎日、情報共有の場を

「**運**送業ではそれぞれの社員が勤務する時間が異なり、皆で顔を合わせる場を作るのが難しいということが多々あります。しかし、矢部庄七商店に夜勤はありません。工業薬品はお客様の立会いが必要なため、お届けするのもお客様の営業時間内です。日勤のみであることを活かし、情報共有の場として毎日勤務終了時に終礼を行っています。安全のために「できることからやる」という矢部社長の考えのもと行われている終礼では、取引先の新たな情報や運転する上で注意が必要な場所など、些細な事でもその日にあったトピックをそれぞれが発表。この終礼を行うことで、従業員同士で顔を合わせてのコミュニケーションがとれ、ヒヤリハットといった交通安全に対する情報を共有することもできます。こういった日々の積み重ねが、働きやすい環境づくりや交通事故を未然に防ぐことにも繋がっています。



【使用機器】・設置型アルコール検知器 ALC-miniIV

取材後記 「安全で事故を起こさないことが売り」と語っていた矢部社長。安全を実現するために、アルコール検知器の存在が従業員に与える影響は大きく、自然と「安全への意識」を根付かせるのに一役買っていると感じました。